

釣りバカ日誌16 浜崎は今日もダメだった

2005(平成17)年9月4日鑑賞(梅田ピカデリー)

★★★★



監督＝朝原雄三／出演＝西田敏行／三國連太郎／浅田美代子／持丸加賀／金子昇／伊東美咲
／尾崎紀世彦／中本賢／ポビー・オロゴン（松竹配給／2005年日本映画／115分）

……今や「平和ニッポン」を代表する夏の風物詩(?)ともなった『釣りバカ』シリーズも、1988年からはや第16作目。今回の舞台は長崎の佐世保。そしてマドンナならぬヒロインは、今が旬のあの八頭身美人の伊東美咲！ 父娘の感動ドラマと爆笑を呼ぶ、アツと驚くハプニングの妙に単純に感心し、快適なバカ笑いのひとときを……？ それにしても、西田敏行演ずる「浜ちゃん」が第2の「寅さん」になるためには、あの出っ腹を少し何とかしなければ……？

久しぶりに『釣りバカ』を堪能……？

1988年から続く『釣りバカ』シリーズも既に第16作目（「スペシャル」と「花のお江戸」の2本を含めると実質は18作目）となり、今回のマドンナならぬヒロインは、あの八頭身美人の伊東美咲。それを知って私は「これは……」と思っていたが、私の鑑賞すべき優先順位は低かったもの。ところがたまたま時間の余裕ができたため(?)、映画館へ行くことに……。

最近私は、アチコチの映画館で観客の少なさに慣れていた(?)が、なぜかこの『釣りバカ』はほぼ満席。そして上映終了後も周りの席から「ああ面白かった」との声が聞こえてきており、さすが「平和ニッポン」を代表する夏の風物詩(?)と感心していたが、後でパンフを読むと、「大好評につき、今年も『全国一律1000円興行』を実施」していたとのこと……。

私は、株主優待のタダ券で入っていたので知らなかったが、この格安料金が『釣りバカ』人気に寄与していたわけだ。もっとも年配の夫婦連れが多いから、

夫婦50割引やシニア割引を使っても1000円は同じはずで、やはり国民の人気は不動……？ それはともかく、私自身も久しぶりに観たこの『釣りバカ』の面白さを十分に堪能……。

いつまでも若い浅田美代子に大拍手！

「寅さん」に並ぶのが「浜ちゃん」なら、寅さんの妹「さくら」に並ぶのが浜ちゃんの愛妻「みち子」。さくらこと倍賞千恵子は、『ハウルの動く城』（04年）でも『空を飛んだオッチ』（05年）でも今やすっかりおばあさん役が定着してしまったが、みち子こと浅田美代子はまだまだ若くて美人……？ 私の大学生時代、あの一世を風靡した『赤い風船』を歌っていた可憐な顔とスタイルがほぼそのまま現在まで……？ そのうえ、『さんまのスーパーからくりTV』では、テニスウェア姿で中村玉緒とともに下手クソなテニスに挑んでいたし、今注目のテレビドラマ『女系家族』では、米倉涼子をいじめるイヤミなオバサン役を好演……？ 今や何でもござれの超スーパースター（？）だが、何ととっても、この『釣りバカ』シリーズでのみち子役はもっとも安定感のあるもの。秋吉久美子、風吹ジュンと同じイメージの（？）私の大好きな女優浅田美代子なら、今後まだ20年間はみち子役は大丈夫……？ あとは、浜ちゃんこと西田敏行が節制につとめれば、ひょっとしてあの『寅さん』シリーズを抜くことも可能……？

『釣りバカ』の基本構成は……？

寅さん映画には「マドンナ」が不可欠。しかし『釣りバカ』シリーズでは、第7作に名取裕子が、『花のお江戸』バージョンに酒井法子が、第13作に鈴木京香が、そして第15作に江角マキコが登場したが、このような「ヒロイン」は必ずしも不可欠ではない。むしろ『釣りバカ』シリーズの基本構成のポイントは、浜ちゃんこと浜崎伝助とスーさんこと鈴木一之助社長との釣りを通じた男の友情……？

シリーズ当初は、浜ちゃんとみち子との夫婦関係や第一子鯉太郎の誕生話などが話題とされたが、シリーズが進むにしたがって次第にロケ地が拡大するとともに、ストーリーづくりも自由な構成に……？ そして今回は、松竹映画の王道（？）に戻り、2人暮らしの父娘の愛情とその娘の結婚騒動が基本ストーリー。

ヒロインはあの伊東美咲、そして……？

今回ヒロインに抜擢されたのは、『海猫』（04年）で日本アカデミー賞新人賞を獲得し、現在テレビドラマ『電車男』でエルメス役を演じている、八頭身美人の伊東美咲。今が旬の彼女を抜擢したのはさすがいいセンスだが、彼女が演ずる河口美鈴の父親である輝男役を歌手の尾崎紀世彦が演じているのが面白い。その名前を見て、どうせセリフの少ない、演技の素人でもできる役だろうとタカをくくって観ていたら、何の何の、これが実にいい役。さて、美鈴の父親輝男が佐世保で経営しているお店とはどんな店……？ そして今回、白馬の王子となる久保田達也（金子昇）との恋模様の展開は……？

こんなノー天気な会社だが……？

長い間「失われた10年」と呼ばれ、デフレ不況が続いた日本国において、スーさんこと鈴木一之助を社長とする鈴木建設もその経営は苦しかったはず。しかしスーさんはそんなことはおくびにも出さず、いつもやさしく懐の深い社長を好演……？ そしてこのスーさんの応援のおかげで、「万年ヒラ」とはいえ、あの浜ちゃんがサラリーマンとして曲がりなりに給料をいただくことができたわけだ。

ここ数年の日本の景気持ち直しを反映して（?）、この鈴木建設も3年にわたるビッグプロジェクトであった長崎県佐世保市での第二西海橋工事が完成し、遂に今日はその連結式を迎えることに……。

さらに、リニューアルされた「鈴木建設社歌」を社員みんなが楽しく歌うのが、この映画の冒頭シーン。浜ちゃんが所属する営業3課の朝の課内風景を見ても、のんびりムードがいっぱい……。景気回復は結構だが、こんなに遊んでばかりいるとまたヤバイのでは……？ いやいや、この映画を観るについては、そんな現実的な話はすべて忘れてしまわなければ……？

誰とでもすぐお友達に……

浜ちゃんがサラリーマンとして失格しなかったのは、もちろんスーさんの応援によるもの。しかし、こう断言してしまうのは、浜ちゃんに失礼というもの

……？ 浜ちゃんの良さは釣りを通じて誰とでもすぐにお友達になれること。実はこの不況下、鈴木建設が第二西海橋の大プロジェクトを受注できたのは、浜ちゃんの釣りを通じた人脈によるもの……？ したがって、仕事はロクにできなくても、連結式に赴いた(?) 浜ちゃんにはお友達が多く、人気の的……？

こんな浜ちゃんが今回お友達になるのは、アメリカ海軍の水兵であるボブ(ボビー・オロゴン)。ボブは、本社への転勤を再三理由をつけて断り、佐世保で3年間頑張ってきた達也の友達だが、2人が友達となったのは、美鈴の父親輝男が経営するお店を通じてのもの。連結式への出席など眼中にない浜ちゃんは、達也の手配した釣り船で早速イカ釣りに出発だが、その準備の手助けをしたのが美鈴であり、釣り船に同行したのがボブ。単純な釣りバカ兵(?) であるボブは、浜ちゃんの釣りの腕前にホレて、たちまち浜ちゃん先生と大の親友に……。

浜ちゃんの恋のアドバイスは……？

結婚して美鈴が東京に出てくることになれば、20年間2人暮らしを続けてきた父親を1人佐世保に残すことになる。しかし、果たして美鈴はそれに耐えられるか……？ こういう状況設定はよくある話。そして、伝統的な松竹映画はそういうテーマが大スキ……？ 浜ちゃんの後輩だが、実は久保田興業の御曹司でもある達也は、お坊ちゃま(?) らしく一直線。そんな達也から「お嬢さんをボクにください」と父親に頼み込む際の秘訣(?) を教示した浜ちゃんだったが……？

『釣りバカ』最大の一大事！

人との交流に酒が絡むのは世の常。まして、解放感いっぱいの旅先での釣りともなれば、釣りが大成功すれば酒、そして失敗しても酒、となるのは当然。さらに今回は、そこに美鈴と達也の恋模様と美鈴と輝男との父娘の葛藤が絡んでくるから、より一層酒のウエイトが大きくなってくる。

そして、ある晩起こった、ある事件の後、グデングデンに酔っぱらった浜ちゃんが目を覚ましたところは……？ こりゃー大事。下手すれば、日米の協調関係、同盟関係にもヒビが……？ いやはや、この『釣りバカ』シリーズ最大の一大事の面白さときたら……？

2005(平成17)年9月5日記